

伝承あそびに関する調査研究（1）

— 約30年間における伝承あそびの意識変化 —

Research about Traditional Play — A Consciousness Change in Traditional Play over 30 Years —

(2008年3月31日受理)

大橋美佐子 谷本 満江
Misako Ohashi Michie Tanimoto

Key words : 伝承あそび, 生活活動, 環境

要 旨

1980年度入学生と2007年度入学生の「伝承あそび」のアンケート調査の結果、1980年度入学生は、戸外で身体を使った群れあそびが中心となり、身体のバランスを養ったり、自然物を利用したりするあそびが主であった。1980年度入学生と2007年度入学生で変化が大きかったものはあそびの内容で、身体をぶつけ合ったり、ふれあったりするあそびが激減していた。あそびの名称を挙げると、「馬のり」は2007年度入学生においては、名称も知らないという現状があった。その背景の一つには、子どもの身体の変化も影響していると思われる。2007年度入学生は、あそびの種類は約30年前に比べて30種類程度増えていたが、名称が変わっただけで、あそびの内容は同じものが多かった。今後、保育学生としての自己研鑽は必要不可欠であるが、保育者養成の立場においては、「伝承あそび」に触れさせたり、実践させたりすることが必要だと考える。

はじめに

私たちは幼い頃、あそびを中心として生活をしてきた。そのあそびの中で年長者からあそびのルールや約束など多くのことを学んできた。現代社会では子どもを囲む状況が変化し、次第に自然を見なくなってきた。あそびとして最も魅力を持つ対象である土・砂・泥・石・草・木・水など自然は子どもの発育発達・人格形成・教育にとって大きな意義を持っている。しかし、道路は舗装され、あそび場はフェンスで囲まれ芝生となりベンチが置かれ、靴も服も汚れないことがよしとされるようになった。筆者大橋が約20年前に保育現場で働いているときに「伝承あそび」の研究をした。そして「伝承あそび」には群れて遊ぶことで、遊び方やコミュニケーションの取り方など、社会生活に必要ないろいろな要素が入っているため、後世に伝えていかなければいけないものの一つ

ではないだろうかという結論が出た。その頃から十数年経った現在、「伝承あそび」の存在を確認したいと考え再びこの調査研究を行おうと考えた。かつて筆者谷本が本学保育学生の1980年度入学生に「伝承あそび」の意識調査を行っていた。それにあわせて大橋が2007年度入学生に対して「伝承あそび」の意識調査を実施した。

変容を遂げた社会で、現在の学生が子どもの頃していた「伝承あそび」を質問すると、すでに「伝承あそび」という言葉そのものがわからない学生が数名いた。

このような現状をふまえ、保育者養成の立場から「伝承あそび」の継承とあそび方を知らせ、保育現場における保育技術の一つとして現在の学生に伝授していきたいと考えた。

まず、約30年前の本学学生のアンケート調査と同様に今年度の本学学生をもとにアンケート調査を行い、比較検討したのでここに報告する。

方 法

- ・1980年度入学生172名，2007年度入学生109名に自分が幼い頃あそんだ伝承あそびを自由記述させた。
- ・あそびを年度別，戸外あそび用具あり・用具なし，室内あそび用具あり・用具なしに分類した。

結 果

1. 子どもの生活とあそび

子どもの生活の中で，あそびはきわめて重要な位置を占めている。子どものあそびの質と量は，あそび仲間や環境の条件によって変わるとも考えられ，生活活動の大部分を占めるあそびの繰り返しや，積み重ねが子どもの全面的発達を促し，その発達に伴ってあそびもまた次第に内容が豊かになる。また，子どもはある能力が身につくと自発的にそれを使用することによりさらに能力は高められていくと言われる。子どものあそびは生活の中心であるから，たとえ漠然としたあそびであっても自分自身の一貫性の意識をあたえるための媒介手段であり，子どもの生活を支える要素の一つとして重要な役割を担っている。

子どもは，まず興味を示し活動したいという欲求のもとにあそびに入っていくものである。また，あそんで楽しければ，それは必ず繰り返し行われ，継続される。そして，あそびに夢中になりケンカをし，我慢や忍耐力を身に付けながら自立の精神が育ち，工夫や創造し，誰とも仲良くあそべるよう社会性を身に付けるのである。

2. 1980年度入学生における伝承あそびの種類

表1，2，3に示すように，戸外であそぶことがとても多かった。用具を使用してあそぶ場合でも，自然物を使用したあそびや身近にある用具を使用していた。また，身体のバランスを保つあそびや友達がたくさんいた方が楽しいあそびが多い。用具を使用しないあそびでは，身体を全面的にぶつけ合うあそびが比較的多いことがわかった。用具を使用しないあそびでも，友達の数が多い方が楽しいあそびばかりである。一方室内あそびでは，用具の使用有り無しに関係なく，どちらかといえば女子が好みそうなあそびがほとんどであった。

表1 1980年度入学生 伝承あそびの種類（戸外あそび）

用具の使用あり		用具の使用なし	
番号	あそびの名称	番号	あそびの名称
1	石けり	1	かごめかごめ
2	まりつき	2	花いちもんめ
3	ビー玉	3	陣取り
4	かんけり	4	はじめの一步
5	めんこ	5	鬼ごっこ
6	なわとび	6	馬乗り
7	ごむとび	7	とうりゃんせ
8	竹馬	8	ジャンケンうずまき
9	こままわし	9	十字架
10	たこあげ	10	馬跳び
11	けん玉	11	ぼこぺん
12	はねつき	12	かくれんぼ
13	竹とんぼ	13	なべなべそこぬけ
14	面作り	14	タケノコ抜き
15	葉っぱあそび	15	あーぶくたった
16	かわらおこし	16	あんたがたどこさ
17	ボール投げ（屋根）	17	らっかさんがそろった
18	棒倒し	18	字かくし
19	くつつかくし	19	山崩し
20	かんぼっくり	20	影踏み
21	ハンカチ落とし		
22	貝笛		
23	電車ごっこ		
24	輪回し		
25	おちりんこ		
26	すぎ鉄砲		

表2 1980年度入学生 伝承あそびの種類（室内あそび）

用具の使用あり		用具の使用なし	
番号	あそびの名称	番号	あそびの名称
1	お手玉	1	手遊び
2	おはじき	2	指相撲
3	あやとり	3	腕相撲
4	着せ替え人形		
5	かるた		
6	だるま落とし		
7	宝探し		

表3 1980年度入学生 伝承あそび戸外あそびと室内あそびの種類の割合

場 所	用具の使用	種類（数）	%
戸外あそび	あ り	26	43.3
	な し	24	40.0
室内あそび	あ り	7	11.7
	な し	3	5.0
合 計		60	100.0

3. 2007年度入学生における伝承あそびの種類

アンケートをとるときに一部の学生から「伝承あそび」って何という質問が出た。例として「花いちもんめ」と「ケンパ」を提示したためそのあそびはほとんどの学生が記入していた。この年齢の学生たちは、自分がしていたあそびがはたして「伝承あそび」なのか、そうではないのか区別がつきにくいようである。しかし思った以上にあそびの種類は出てきた（表4、5、6）。あそびの種類は多くなっているが、経験している人数は少なかった。室内あそびの用具を使用しないものについては、ほとんどがジャンケンを使ったあそびと「歌」がつかいことがわかる。名称が「戦争」「竹やぶ」「みそラーメン」などとなっているが、あそび方をみるとすべてジャンケンあそびであった。

4. 約30年間での伝承あそびの変容

1980年度入学生と2007年度入学生を比較して第一にいえることは、身体を十分に使ったあそびが現代に近づくにしたがって激減していることである。戸外あそびでは約30年前に比べ、鬼ごっこの種類が多くなっていた。時代とともに名称やあそび方が、少しずつ変化してきていると言えるのではないだろうか。表1～表6に示されているあそびも変化が見られるように、身体をぶつけ合ったり、ふれあったりするあそびの経験がないに等しくなっている。

表4 2007年度入学生 伝承あそびの種類（戸外あそび）

用具の使用あり		用具の使用なし	
番号	あそびの名称	番号	あそびの名称
1	郵便屋さん	1	花いちもんめ
2	いろはにこんぺいとう	2	かごめかごめ
3	あんたがたどこさ	3	ケンパ
4	かんけり	4	だるまさんがころんだ
5	ゴムとび	5	氷おに
6	大縄とび	6	けいどろ
7	竹馬	7	鬼ごっこ
8	こままわし	8	色おに
9	縄跳び	9	かくれんぼ
10	まりつき	10	ポコペン
11	おままごと	11	なべなべそこぬけ
12	凧あげ	12	あぶくたった
13	おはじき	13	たかおに
14	草すもう	14	グリコ
15	くまさん	15	うずまきジャンケン
16	ホッピング	16	陣取り
17	ボールけり	17	あんたがたどこさ
18	サッカー野球	18	十字架
19	天下	19	色あておに
20	石けりおに	20	島おに
21	ゴムだん	21	さめ鬼
22	お天気占い	22	陣取り（地面に書く）
23	くつとり	23	ロンドン橋
24	くつかくし	24	ひょうたん
25	紙ひこうき	25	Sケン
26	牛乳瓶のふたとばし	26	メロン
27	秘密基地	27	ジャンケン列車
28	木のぼり	28	影絵
29	割り箸銀行	29	おしくらまんじゅう
30	めんこ	30	後ろの正面だあれ
31	葉っぱの舟で競争	31	とんとんとん今何時
32	水切り	32	探検（実際に山に行った）
		33	探検ごっこ

表5 2007年度入学生 伝承あそびの種類（室内あそび）

用具の使用あり		用具の使用なし	
番号	あそびの名称	番号	あそびの名称
1	ハンカチ落とし	1	おちゃらかほい
2	あやとり	2	アルプス一万尺
3	いすとりゲーム	3	ずいずいずっころばし
4	フルーツバスケット	4	戦争
5	けん玉	5	げんこつ山のたぬきさん
6	お手玉	6	にらめっこ
7	かるた	7	おせんべい
8	人形あそび	8	ジャンケンほいほい
9	トランプ	9	みかんの花
10	割り箸鉄砲	10	ちやちやつぼ
		11	あっちむいてほい
		12	竹やぶ
		13	みそラーメン
		14	パイナップルジャンケン
		15	グリーンピース
		16	ブルドック
		17	ジャンケン
		18	しりとり
		19	この指とまれ
		20	お寺の和尚さん
		21	茶摘み
		22	貨物列車
		23	しよじよじ
		24	どん

表6 2007年度入学生 伝承あそび・戸外あそびと室内あそびの種類の割合

場 所	用具の使用	種類（数）	%
戸外あそび	あり	32	33.9
	なし	33	33.0
室内あそび	あり	10	9.9
	なし	24	23.2
合 計		99	100.0

考 察

あそびとは子どもたちが日常的に行っているものである。その中でも古くからあそばれ、何世代もの人々に受

け継がれてきたあそびの事を指すものが「伝承あそび」であると考えられる。小川（2005）は、遊びの歴史を知らなくても、遊び方さえわかれば遊ぶことができるし、楽しい体験もできる。しかし、我々はある種の遊びを「伝承遊び」と呼ぶ。なぜ私たちは、子どものある種の遊びを「伝承遊び」と呼ぶのか、また、この「伝承遊び」という概念はいつ頃成立したのか。ということの研究し、「伝承遊び」という言葉が出てきた時代を昭和40年代に入ってからだと述べている。

また、「伝承遊び」という言葉は、それまで遊ばれてきた遊びが人々の生活の変化の中で遊ばれなくなっていくその過程で生じ、それを危惧する大人によって意識を伴って使われだしたものであると考えられるとも述べている。昭和40年代（1960年後半から1970年前半）には、芸術教育研究所や加子子、小泉文夫、半澤敏郎などが伝承されている子どものあそびの調査や紹介をはじめ、子どもたちが直接見たり、読んだりできる案内書も多く作られたようである。

1980年度入学生たちが育った背景には、社会的にはマスメディアの急速な発達、人口増加、マイホーム志向、核家族化、大量生産など多くのものを生みだしていった時代である。そして、各家庭にはテレビが普及しアニメやドラマのキャラクターが登場し始めた頃でもあった。ウルトラマンや仮面ライダーの登場により、室内でも戸外でも戦いごっこが連日繰り広げられていた。その時代にはまだ、戸外には空き地や自然があり近所の子どもたちが群れてあそんでいた。表1の用具を使用するあそびをみると、自然物の石、身近にある缶、ゴム、竹などが上位にあり、手軽に手に入るものであそんでいたようである。用具を使用しないであそぶもので、上位にある馬乗りは、表5の2007年度入学生のランクには名前も出ておらず、知っているかたずねてもほとんどの学生は知らなかった。これは、子どもの身体がおかしいと言われたし、骨の弱い子どもが増えたことも原因ではないだろうか。

2007年度入学生たちが育った背景には、社会的には昭和から平成へと年号が変わり、バブル経済崩壊、各業界でのリストラと暗いニュースが続いた時代でもあった。少子化にも拍車がかかり、幼い頃から塾に通わせる家庭が増え、戸外であそばせるとけがをするからと過干渉気

味の親も増えてきた。安全教育から環境整備は忘れてはならないことだが、言葉で教えるだけでなく、身体を張った体験の積み重ねによる主体的行動が取れるよう環境を整える必要がある。子どもたちが、あそびやケンカの中から仲間との協調性、集団に適応する社会性を身に付け、子どもたちに自然のあそび場を提供したいものである。

その上、家庭に普及しているゲーム機を使って遊んでいる子どもも多く見られた。また、いろいろなカードを集めてゲームをしたり、交換したりという遊びも流行った時代でもある。約30年前と比較して用具を使用するあそびでは、縄、大縄、ボールなどと自然物や身近にあるものではなく、運動用具を使用してあそんでいるものが上位を占めている。自然物や身近なものを使用するよりも、大人から与えられたものを持ってあそぶことの方が楽しい時代になりつつあるように思える。ジャンケンは何かを決める時に使用するものと思いがちであるが、表5の名称「戦争」「竹やぶ」「みそラーメン」などと名前がついているが、あそび方をみるとすべてがジャンケンあそびである。これらを見てもわかるようにジャンケンそのものが楽しいあそびであることは言うまでもない。「歌」については、微妙に歌詞が違っていたり、節が違っていたりする。私たちがあそんでいた頃が正しいのかというと、そうではない。「歌」については、あそびの中で歌い継がれてきたものであるため、誰かが初めの歌詞を間違えて歌い、それがおもしろかったり、その時代に合っていたりしたならばその歌詞が歌い継がれるであろう。この点については、今後の課題としてデータを収集したい。表5に示すように室内で用具を使用するあそびについては、ゲーム的要素が入ってくる。「フルーツバスケット」と呼ばれるものは、いす取りゲームのバリエーションの一つであるが、幼児が理解するには少し時間が必要になり、縦のつながりが薄れてきている時代では、大人が関与しなければならない場面も出てくるであろう。「トランプ」においても同様のことがいえると思われる。

このような結果から時代を比較してわかるように、約30年前には子どもの身体がおかしくなってきたと言われながらも、戸外であそぶ機会はまだあったはずである。あそびを展開していく方法を仲間と考えながらあそんで

いた時代から、大人から与えられたもので、与えられた時間、与えられた場所でしかあそべなくなっている時代の流れがある。子どもを取り巻く現代社会は、決して健康な社会と言うことは出来ない。1980年代頃から子どもの身体がおかしいといわれはじめ、環境があまりにも変化していき、子どもたちは座っているだけで事が足りる時代になってきている。心の歪みの原因は様々だが、最も大きな原因としてあそび不足が取り上げられている。子どもの情緒的な豊かさと優しさと感性を育て、子どもらしく生き生きと健康的な生活を送るためには、適切なあそびの指導が大切であり、この重大な任務を担っているのが、保育者でもある。

現代社会では、近所で縦のつながりを作ること自体が困難であったり、あそぶ時間がなかったりという現状がある。そのため、これからの子どもに関連する施設においては、保育者が「ガキ大将」の役割を担い、子どもたちを引き連れて「伝承あそび」を経験させなければならぬ時代がきているのではないかと考える。日本には四季があり、それを肌で感じさせながら日本古来からのあそびを伝えていくという保育者の役割もあると思われる。また、「伝承あそび」をして見せるだけでも子どもたちの心の中に残るのではないだろうか。そのためにも、自己研鑽が必要不可欠だと考える。

穂丸ら（2007）は日韓の幼児教育研究者と共同で両国の伝承遊びの実施状況と保育者の認識調査を行っている。その結果、日本全体の99%の保育所と幼稚園で伝承遊びが実施されていた。伝承遊びを導入している理由として、①子どもの成長や発達に有効である。②日本の遊び文化の継承のためということがあげられた。しかし、多くの保育者が伝承遊びに対する力量不足を認識するとともに、保育研修の必要性を認めていたと述べているように、日本の文化である「伝承あそび」を継承していかなければならないということは十分わかっているが、その方法（あそび方）を知らない場合が多かったり、自信がなかったりする。そのような調査結果をふまえ、私たち保育者養成の立場からすると、授業やボランティアを通して少しでも「伝承あそび」に触れたり、実践させたりすることが必要だと考えている。

保育者養成をしている私たちは、子どものいる施設ではどのようなあそびをしているのか、また、「伝承あそび」

をしている施設はあるのかどうか、実態を調査するべく、保育所や幼稚園に足を運びたいと考えている。もう一つの課題としては、本校へは毎年中国五県からの入学者がいるためその学生たちにアンケートを実施し、一つの遊びに関しての地方による違いや歌の違いを調査していきたいと考えている。

参 考 文 献

- ・小川清実：子どもに伝えたい伝承あそび 一起源・魅力とその遊び方― 萌文書林（2005）
- ・穂丸武臣：幼児体育指導者の資格創成 保育者養成の立場からの提言『子どもと発育発達』 杏林書院（2007. 4）
- ・荒木タミ子・谷本満江他：新訂幼児期の運動あそび 不昧堂出版（2004）
- ・竹内一二美・谷本満江他：幼児の体育遊び 出町書房（1982）
- ・荒木タミ子・谷本満江：中国短期大学紀要11号（1980）
- ・谷本満江：中国短期大学紀要第13号（1982）
- ・土谷由美子・谷本満江・荒木タミ子：中国短期大学紀要第21号（1990）
- ・谷本満江・原田眞澄：中国学園紀要5号（2006）